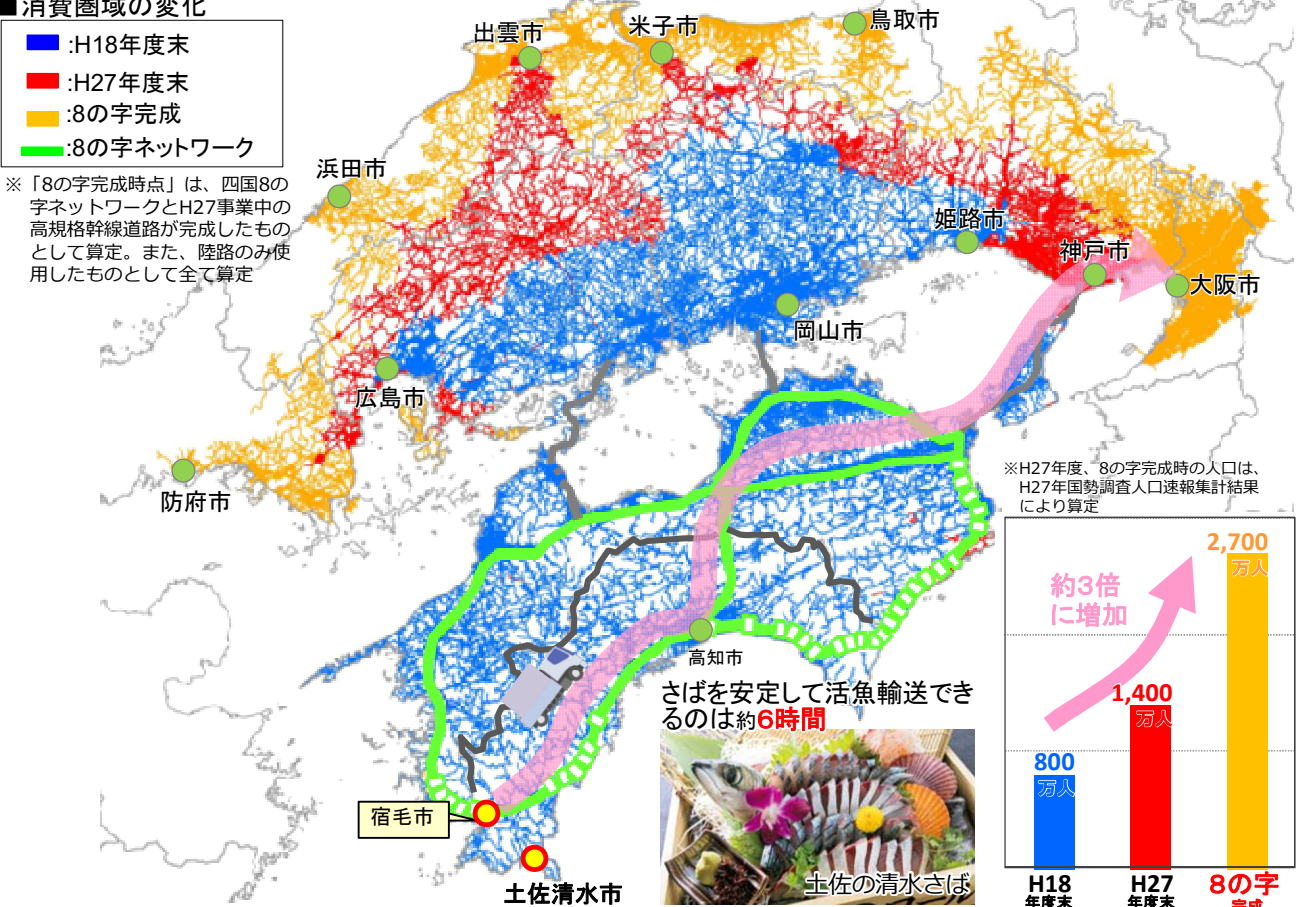


消費圏拡大【西部地域】

●宿毛市からの消費圏域(6時間圏域)の拡大
■消費圏域の変化



●地域の特産物を新鮮な状態で輸送できるエリアの拡大【土佐清水市】

■「土佐の清水さば」の活魚を提供する飲食店が関西に開店(7店舗)

■遠方への活魚輸送に不可欠な高速道路

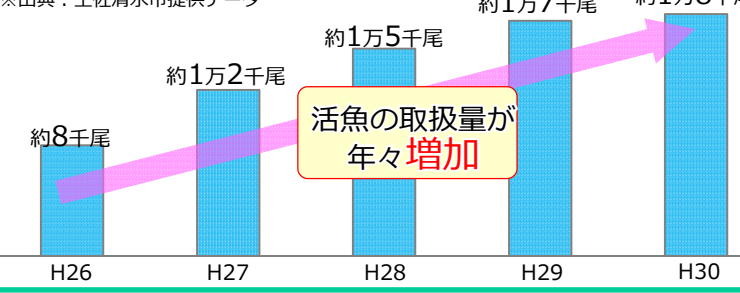
■養殖魚の加工能力県内最大規模の水産加工施設が操業開始(R1.7)

2017年7月オープン
『土佐清水ワールド 三宮中央通店』(神戸市中央区)

活魚での出荷によりさばの単価が3~5倍

(高知自動車道)

■「土佐の清水さば」の活魚取扱量推移



8の字の整備 特産物の輸送コストの削減などにより、産地間競争力が高まる

●産地加工体制の強化による付加価値の向上【宿毛市】

・事業内容：養殖魚の加工等

・県内新規雇用者：22名(R1.12現在)

・対米HACCP認証取得予定

・主な加工品(フィレ)

加工量約1,600尾/月 (ブリ)

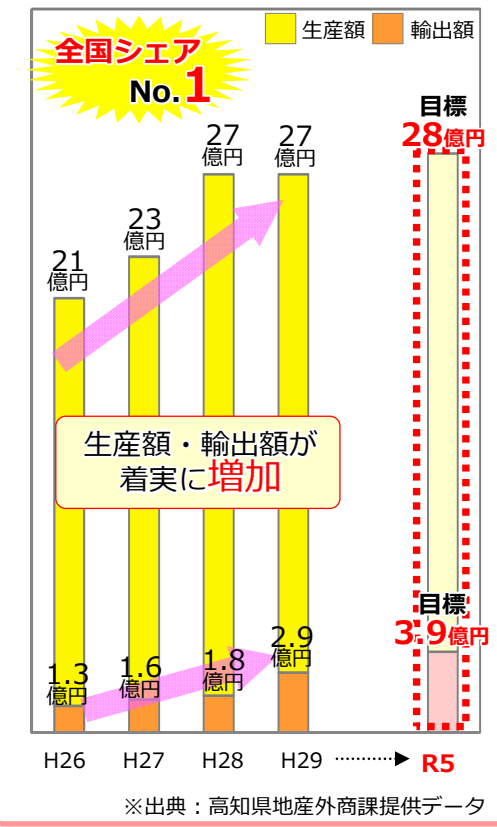
加工量約2,000尾/月 (マダイ)

輸出拡大【東部地域】

●地形が急峻で地質が脆弱な国道493号では大規模な崩壊や落石が頻発



●高知県産ゆず生産額・輸出額の推移



●高知県のゆず生産の安定化・効率化【北川村】

■国道493号などを利用して出荷

■新たなゆず園地の整備

集出荷場へゆずを運ぶ様子

苗木が植えられた北川村宗ノ上地区の園地(R2.5)

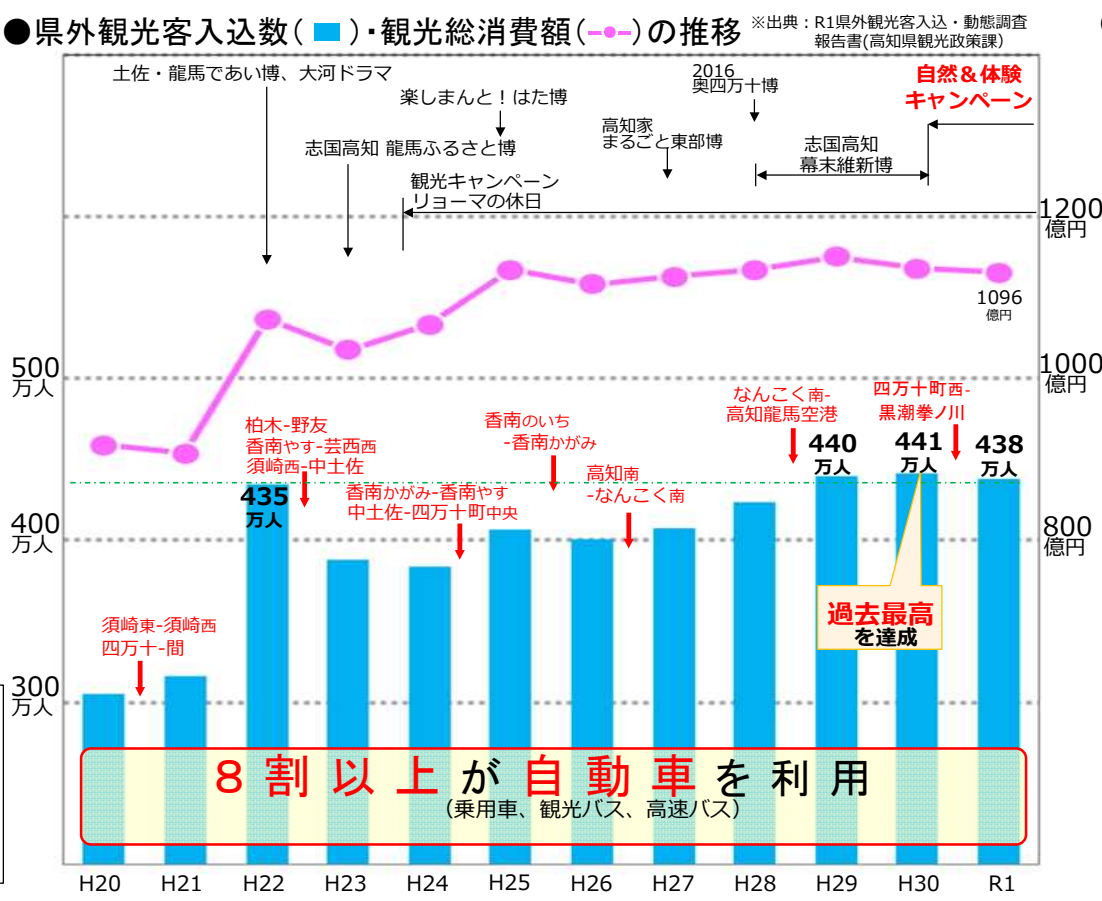
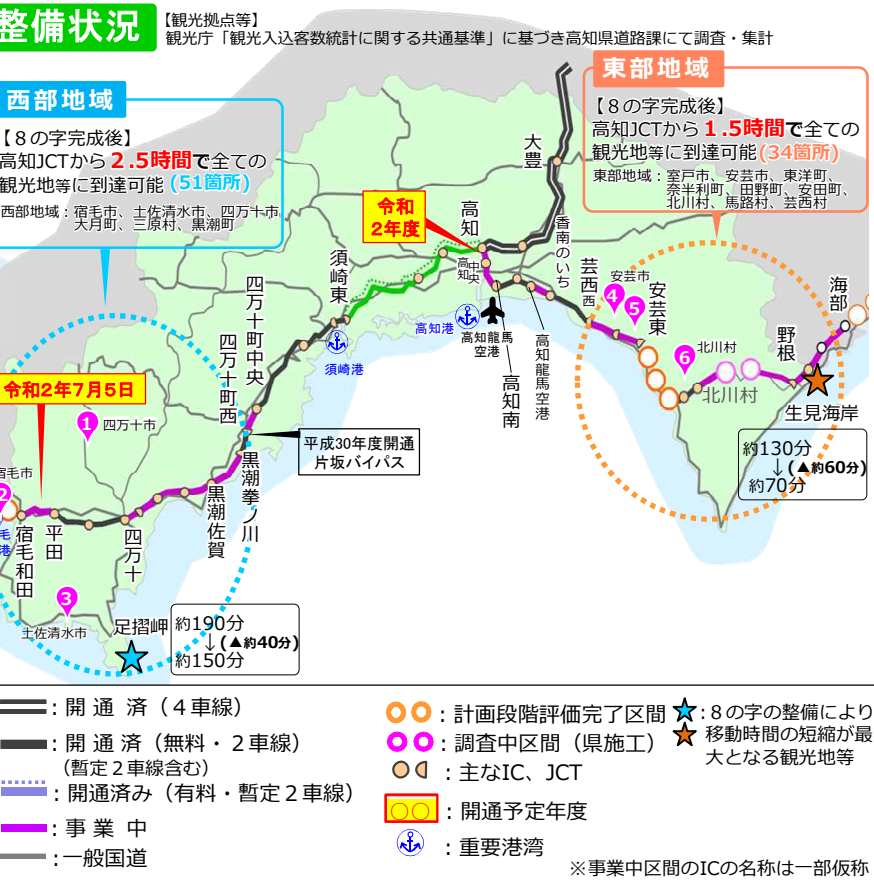
生産地からの主な輸出ルート(青果の場合):北川村→成田空港→EU

現在の主な出荷ルート R493→R55→E55→E32⇒

8の字完成後の主な出荷ルート E55⇒

輸送時間 ▲1時間30分

※野友IC~成田IC間の片道の所要時間の比較



● 460万人観光の実現と地域への誘客拡大に向けた取り組み

■「自然&体験キャンペーン」を開催中

あなたの、**新休日。**
高知

2019年2月1日(金)~2021年3月31日(水)

大自然を満喫するアクティビティから地元の方々とのふれあいや街歩きなど訪れる人それぞれが高知を満喫できる体験プログラムが充実

リョーマの休日
~自然&体験キャンペーン~

西部地域 自然・体験型観光による誘客拡大を支える

1【四万十市】 四万十川カヌー体験

2【宿毛市】 ファミリーフィッシング

3【土佐清水市】 地域が一体となった観光拠点の再整備

(H31.4オープン) スノーピーク土佐清水キャンピングフィールド

(R2.3オープン) 電報ビクターセンター「つみのわ」

(R2.7オープン) 県立足摺海洋館「SATOUMI」

● 体験型観光商品の利用者数と商品数の推移

対象: 四万十市、宿毛市、土佐清水市、黒潮町、大月町、三原村

79商品

85商品

101商品

1.1万人

1.9万人

2.0万人

2.9万人

H26→H30 利用者数 約2倍

8の字の整備が後押し

● 県立新足摺海洋館「SATOUMI」

館内展示と周辺の自然やアクティビティが連動した新しい水族館

入館者数

4.5万人

11万人

目標(10年後)

東部地域 スポーツツーリズムによる交流人口の増加を支える

4【安芸市】 阪神タイガース秋季キャンプ(安芸市営球場 R1.11)

● 阪神タイガースキャンプ 観客の出発地

8割以上が県外客

近畿地方 53%

四国3県 17%

中国地方 7%

その他 6%

県内 17%

● 阪神タイガースキャンプ期間の観客数の推移

1.9万人

2.9万人

4.0万人

4.7万人

H25→R1 約2.5倍

● 安芸市スポーツ合宿関係者の宿泊数の推移

約2,900人

約4,800人

約4,200人

約4,300人

約3,800人

H26 H27 H28 H29 H30

H27年度以降、関西大学体育会野球部など、13校が合宿を実施

● 地域への誘客拡大に向けた取り組み

■ 情報発信力の強化

5【安芸市】 岩崎彌太郎こころざし社中(安芸観光情報センター)

■ 観光拠点の再整備

6【北川村】 北川村「モネの庭」マルモッタン

来園者数

7.0万人

8.5万人

目標

● R2.3.28リニューアルオープン

・VR映像による観光地の紹介

・東部地域の特産品の販売や多言語表記パンフレットを活用した観光案内

● R2.5.16リニューアルオープン

・開園20周年の記念事業

・モネの庭三庭園の一つ「光の庭」をリニューアル

四国8の字ネットワークの整備促進【地域の防災力の向上】

高速道路に近接した高台への防災拠点の移転「南海トラフ地震に備える」

●宿毛市(市街地の長期浸水)



●黒潮町(全国最大34mの津波に備える)



●四国8の字ネットワークに近接した津波浸水の影響を受けない高台等へ市庁舎等の防災拠点を移転

E56 四国横断自動車道	E55 阿南安芸自動車道
西部 【佐賀大方道路】黒潮町(庁舎H30.1月移転完了) 黒潮大方ICの近隣	東部 【安芸道路】安芸市(消防防災センターH25.3月移転完了) 庁舎 R5完成予定
西部 【宿毛～内海】宿毛市(庁舎R4.3月移転完了予定)	東部 【奈半利～安芸】奈半利町(防災センターH30.3月完成)

四国8の字ネットワークの整備

- ・県外等からの**支援物資**や救助・救援活動を行う**支援部隊の円滑な受け入れ体制を構築**
- ・防災拠点港との**連携強化**により、四国西南地域の**防災力向上に寄与**

被災から明らかとなった4車線化の重要性「災害への備えを高める」

●【被災】2018年7月7日 高知自動車道「立川橋」の流失



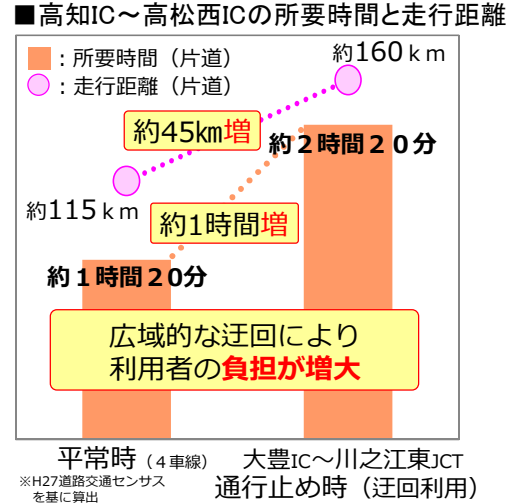
●【6日後】2018年7月13日 対面通行による通行再開



▲対面通行による通行再開(大豊IC付近)

▲対面通行による通行再開(立川上各付付近)

●【約1年後】2019年7月8日 4車線による通行再開



- 四車線化**
 - ・早期の通行再開により、**広域的な迂回を回避**し、利用者の**負担を軽減**
 - ・通行を確保しながら、**早期の全面復旧作業**につながる